

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「食＝江別の魅力！！」地域資源を活かした江別産品販売促進プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

江別市

3 地域再生計画の区域

江別市の全域

4 地域再生計画の目標

江別市は 190 万都市札幌市と隣接しながら、広大な農用地を擁し年間 80 億円前後の農畜産物生産高を上げてきた。

近年の取組の代表的なものとして、幻の小麦と言われた「ハルユタカ」の地域ブランド化をはじめ、小麦の生産から製粉・製麺・販売・流通まで市内で完結する「江別小麦めん」が誕生し、平成 20 年にはこの取組が「農商工連携 88 選」に選出され注目を集めたところである。さらに北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区の指定を受け、市内にある北海道情報大学を主体とした「食の臨床試験制度」を確立し、農産加工品等の高付加価値を実現する取組を進めているほか、平成 29 年度には農村部である江北地区に「都市と農村の交流拠点施設」を開設し、地元住民のみならず、札幌圏全体からの誘客に取り組む。

しかしながら、観光誘客（観光消費拡大）につながる先駆的な取組と潜在能力がありながら、各地域主体の連携が十分に図られていないことに加え、観光資源の磨き上げを担う人材の不足、事業環境の変化に伴う観光・物産販売戦略の見直し、地域資源の発見力・商品サービスの付加価値の創造力の向上が課題であり、さらに交通空白地域等の各観光拠点を結ぶ交通手段がないことも課題となっている。

そのため、地域の知の拠点である市内大学の協力を得て産学官が連携し観光・物産販売戦略を策定し、地域資源の発見力強化、特産品やサービスの付加価値向上、各観光施設を結ぶ公共交通手段の整備を一体的なプロジェクトとして実施することで、商業施設等の各観光拠点での物産販売の拡大を図るとともに、雇用の創出及びそれに伴う学生（若者）の地域定着を推進することにより、定住人口の増加をもたらす、人口減少に歯止めをかけることを目的とするものである。

【数値目標】

	平成 29 年 3 月末	平成 30 年 3 月末	平成 31 年 3 月末
主要観光施設観光入込客数	150,000 人	160,000 人	175,000 人
グリーンツーリズム関連施設の利用者数	487,760 人	491,760 人	497,760 人
産学官・産業間連携のプロジェクトによる新アイテム開発取組数	1 件	2 件 (累計)	3 件 (累計)

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

当市の食と農に関する先駆的な取組や潜在能力がありながら、各地域主体の連携が十分に図られていないことに加え、事業環境の変化に伴う観光・物産販売戦略の見直し、地域資源の発見力・商品サービスの付加価値の創造力の向上が課題であり、さらに各観光拠点を結ぶ交通手段がないことも課題となっている。そのため、多様な主体が連携しながら、プロジェクトを立ち上げ、市内大学の協力を得て産学官が連携し観光・物産販売戦略の策定、特産品やサービスの付加価値向上及び各観光拠点を結ぶ交通手段の整備を一体的な事業として推進することで、雇用創出及びそれに伴う学生（若者）の地域定着を図り、人口減少に歯止めをかける。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金【A3007】

1 事業主体

江別市

2 事業の名称及び内容

「食＝江別の魅力！！」地域資源を活かした江別産品販売促進プロジェクト

平成 29 年度に観光資源として「都市と農村の交流拠点施設（江北地区）」を開設し、江別の食と農の魅力内外に発信、体験できる拠点を整備する。本施設内には市内 4 大学、企業等が試作品の研究開発ができるテストキッチンを設置することで、若者の起業家育成の拠点としての役割も持たせ、原料の生産だけではなく、加工・販売までを可能とする「6 次産業化」を推し進める。また、食に関するイベントの開催やレクリエーション交流ゾー

ンなど、札幌圏の住民をターゲットに観光誘客を見込む。

こうして整備した施設を利用し、これまで江別市が推進してきた食・農の独自の取組を今後は市全体で戦略的に展開し、さらに強固なものにすることを目指す。

まず、江別市の特産品開発・販路拡大のため、これまで市内中小企業や農業者ではできなかった、実践に沿った研修や観光事業者及び外部専門員等からマーケティング・ブランディングのノウハウを学び、今後地域で特産品の開発・販路拡大の舵取り役となる人材を育成する。

また、人材育成に併せて江別に新たな観光誘客を創出するため、市内企業・外部専門員等による地域資源の調査・分析を行い、誘客ターゲットを定め、訴求力の高い地域資源の発見、特産品や観光商品の開発、ブランディング、PR手法まで含めた地域の観光物産に関わる戦略の立案と実践に取り組む。

この戦略の中心的な役割を担うと想定される食に関する特産品は、市内企業、大学、北海道食品加工研究センターと連携し、食品加工や機能性食品等の共同研究に取り組み、食の高付加価値化を図りながら訴求力の高い商品の開発を目指す。

また、上記「都市と農村の交流拠点施設（江北地区）」は現在交通空白地域にある。当該施設は食育の拠点でもあり、子どもや自動車を運転しない方であっても、気軽に食と農の魅力を経験できることが求められ、そのためには公共交通の整備が不可欠である。

現在、他の交通空白地域にある市内観光物販施設でも同様の課題を抱えているが、各施設が独自に交通手段を確保することは経営面からも困難である。そこで、これら施設を結ぶ公共交通手段の調査検討を進め、整備につなげることで、誘客ターゲットが格段に広がり、各施設で上記戦略に基づき開発した特産品等の新たな消費を創出することができる。

これらの域外からの市内消費拡大を図るため、「観光推進体制の強化及び観光振興の担い手となる人材育成」、「人の流れをつくる観光・物産販売戦略の策定」、「都市の農村を結ぶ交通手段の確保」を実現することで、特産品や人を呼び込む魅力を創出し、合わせて江別の観光力及び物産の販売力の向上を図る。

以上の取組を進め、地域食関連産業の生産性向上を実現し、生産性の上昇を通じて質の高い雇用を生み出し、市内にある4大学の卒業生等の若者の地域定着を図りながら、定住人口の拡大を実現する。

3 事業が先導的であると認められる理由

【官民協働】

大学や民間事業者等と連携し既存の観光商品の付加価値向上や商品研究開発に加え、地域の中心銀行である北洋銀行及び北海道銀行と連携協定を結んでおり、販路拡大等に対して金融支援や両金融機関のネットワークによる情報提供を得ることとしている。

【政策間連携】

食と農の魅力を発信し6次産業化を支援する「都市と農村の交流拠点施設」と、都市部を結ぶ交通手段を整備することで、市内の交通空白地域等にある観光関連施設への公共交通手段が確保でき、市内への観光誘客が促進され、施設内のテストキッチン等で開発・加工された物産の販路拡大につながる。

【自立性】

事業開始後、観光振興推進体制の強化・人材育成・物産販売の拡充に注力し、機動力及び実行力のある体制を構築することで、物産販売による事業収入を見込んでいる。さらに江北地区（交通空白地域）の交通網が整備されることによる運賃収入も見込んでおり、4年目以降本交付金に頼らない事業を目指す。

【その他先駆性】

市内にある北海道情報大学を主体とした「食の臨床試験制度」を確立し、市民ボランティア制度による食の高付加価値化の取組は、世界でも例を見ないものである。

4 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月日

	平成 29 年 3 月末	平成 30 年 3 月末	平成 31 年 3 月末
主要観光施設観光入込客数	150,000 人	160,000 人	175,000 人
グリーンツーリズム関連施設の利用者数	487,760 人	491,760 人	497,760 人
産学官・産業間連携のプロジェクトによる新アイテム開発取組数	1 件	2 件 (累計)	3 件 (累計)

5 評価の方法、時期及び体制

毎年度、3月末時点の KPI の達成状況について、有識者会議等で検証結果報告をまとめる。また必要に応じて江別版総合戦略や今後の事業経営方針に反映される。検証結果はホームページで公表する。

6 交付対象事業に要する費用

①法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

・総事業費 51,832 千円

7 事業実施期間

地域再生計画認定の日から、平成 31 年 3 月 31 日まで

8 その他必要な事項

該当なし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

起業化促進支援事業

事業概要：元町アンビシャスプラザ（インキュベート施設）に起業化促進支援相談員（中小企業診断士）を配置し、開業時や事業拡大時の事業計画等について、助言を行う。

事業主体：江別市

開始年度：平成 20 年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 31 年 3 月 31 日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

産官学金労言と住民が参加する外部有識者会議にて、事業の KPI 達成を軸とした PDCA サイクルによる検証を実施。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

3 月末時点の KPI の達成状況について、有識者会議等で検証結果報告をまとめる。また必要に応じて江別版総合戦略や今後の事業経営方針に反映される。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の方法

目標の達成状況については江別市のホームページで公表を行う。